

医薬品開発におけるトランスレーショナルリサーチ ～ヒト組織で繋ぐ基礎と臨床の架け橋～

- ◆ 日時：2024年6月13、14日（木、金）
- ◆ 会場：湘南アイパーク
- ◆ 学術年会長：月見 泰博（あすか製薬株式会社）

医薬品の研究開発は、多くの失敗の歴史を経て日々前進しています。中でも、非臨床（動物）での成績と臨床との間の乖離は依然として大きなものがあり、医薬品開発のあらゆるステージにおいてこの乖離を埋めるべく数多くの努力が為されてきています。基礎と臨床を繋ぐトランスレーショナルリサーチは、新たなテクノロジーを取り込みながら日々発展を続けている分野です。今回、各分野における最新の知見も交えながらそれらの実態を共有しあうことで、近未来の創薬成功確率を向上させる一助になればと考えている次第です。今回は、神奈川県藤沢市にある湘南アイパークにて初めて学術年会を開催いたします。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

◆ 特別講演

I. 臨床検体からHTLV-1関連疾患の病態を考える
内丸 薫 先生（東京大学大学院 新領域創成科学研究科）

II. State-of-the-art translational research in drug discovery and development
Vesna Eraković Haber, M.D., Ph.D. (Selvita)

III. バイオバンク試料・情報の創薬研究への利活用促進
～東北大学東北メディカル・メガバンク機構
の産学連携での取り組み～
野口 憲一 先生（東北メディカル・メガバンク機構）

◆ 一般演題募集 & 事前登録方法

詳細は、近日中にオープン予定の年会特設サイトにてお伝えいたします。

◆ 参加登録費 (要旨集を含む)

HAB 研究機構正会員	8,000 円	非会員	13,000 円
賛助会員	8,000 円	学生	6,000 円
※関連学会会員	10,000 円		
※協賛・後援団体の所属員を予定しております			

事前参加申込期限：2024年4月26日（金）



<お問い合わせ先>

特定非営利活動法人 HAB 研究機構
〒272-8513
千葉県市川市菅野 5-11-13 市川総合病院角膜センター内
TEL 047-329-3563 FAX 047-329-3565
E-mail secretariat@hab.or.jp URL https://www.hab.or.jp

◆ シンポジウム

1. ヒト試料と最先端分析・解析技術を活用した
標的ならびにバイオマーカー探索、および
患者層別化への挑戦と課題

座長：長坂泰久（アステラス製薬）、戎野幸彦（Axcelead）
【概要】創薬標的探索、バイオマーカー探索・同定、患者層別化に関して、ヒト試料・臨床情報と近年進展が目覚ましい各種 AI・Machine Learning による網羅的解析や可視化技術を活用した最新の研究事例を紹介する。合わせて、これら先端技術の効果的な利活用における課題と今後の展望についても議論したい。

2. 薬効薬理解析におけるトランスレーショナルリサーチ
：モデル評価系を中心に

座長：木内祐二（昭和大学）、月見泰博（あすか製薬）
【概要】基礎と臨床を繋ぐうえで、薬効薬理の観点におけるブリッジングは極めて重要な要素の一つとなる。様々なモデル評価系の構築が進められている中、今回、古典的な薬力学的検討から最新の話題を広く紹介することで、今後の展望についても言及したい。

3. ヒト組織を利用した ADME 研究最前線
～ 摘出組織と iPS 細胞が織りなす創薬研究
への競争と協奏～

座長：梅原 健（大塚製薬）、平林英樹（武田薬品工業）
【概要】本セッションでは、創薬現場でも特に注目度の高い、肝臓、小腸および血液脳関門（BBB）モデルに焦点を当て、摘出組織や細胞、およびそこから iPS 化して作製されたオルガノイドなど、創薬への利活用に関する最新の知見を集めた。

4. 臨床サンプルを用いた安全性研究において
Cutting edge technology をいかに応用するか？

座長：篠澤忠紘（武田薬品工業）、檜杖昌則（ファイザー）
【概要】近年、データサイエンスの発展と in vitro モデルの更新により、ヒトにおける薬剤安全性を予測または評価する手法が革新を遂げてきた。本セッションでは、臨床への架け橋として、臨床データの解析手法から臨床サンプルを用いた新規 in vitro 技術について最近の Update を紹介するとともに、今後の利用法について議論したい。